



誰もが生きがいを感じ、自分らしく暮らしていけるしながわ

品川区

面積 22.85km²
世帯数 236,073世帯
人口 410,260人
(うち外国人) 15,961人
予算 2,037億円
職員数 2,812人

歴史・見所・名所

品川区は古い歴史を持つまちです。「荏原」の地名は万葉集に、「大井」は延喜式に見られる由緒ある地名です。また、「品川」は中世には武蔵国の表玄関・品川湊として、江戸時代には東海道の第一の宿として交易の拠点となり、明治時代には日本のビールの先がけである「品川縣麦酒」の醸造所や官営硝子製造所が設立されるなど、近代産業の発祥の地として発展してきました。

また、考古学発祥の地として知られる大森貝塚をはじめ、今なお江戸の面影を残す旧東海道の町並みや大名屋敷跡の戸越公園や池田山公園などがあります。

一方で、再開発が進む大崎は副都心として生まれ変わり、天王洲周辺には水辺の魅力的な施設や景色に多くの人が集まります。荏原地区には人情味あふれる全国でも有数の商店街があり、歴史、文化、アート、水辺空間などの魅力を有機的につなぎ、にぎわいと活気あふれる街づくりを推進しています。

概要

地理

東京都の南東部に位置し、東京湾に面する臨海部と山の手に連なる台地から形成されます。また、区内は大きく、品川地区、大崎地区、荏原地区、大井地区、八潮地区に分かれています。

区内にはJ・R・私鉄など14路線が走り、駅は延べ40あり、交通アクセスが充実しています。さらに、羽田空港の国際化、また将来はリニア中央新幹線の始発駅として品川駅が計画されるなど、生活都市と国際都市の両面を持つ個性的な都市として、より一層の発展が期待されています。

人口推移

人口は、昭和20年代後半から昭和30年度前半に急増し、東京オリンピックの年である昭和39(1964)年に415,728人でピークに達しました。その後は減少に転じましたが、平成10(1998)年以降は再び増加傾向となり、令和6(2024)年に41万人を突破しました。

特徴ある施策

令和6(2024)年4月に「ジェンダー平等」を条例名に冠した(全国で2例目)『品川区ジェンダー平等と性の多様性を尊重し合う社会を実現するための条例』を制定し、すべての人が、性別や性的指向、ジェンダーアイデンティティにかかわらず、「自らの意思によって、社会のあらゆる分野に平等に参画できる社会」「その個性と能力を十分に発揮して、自分らしく生きられる社会」「多様な個人として尊重される社会」「差別や暴力を受けることのない社会」の実現に向けて取り組んで



新庁舎整備

区を取り巻く環境の変化や多様化する行政への要望に対応する庁舎の機能が求められていることから、新庁舎の整備を進めています。



エコルとごしオープン

品川区立環境学習交流施設「エコルとごし」が令和4(2022)年にオープン。環境について楽しみながら学べる施設で、都内公共建築物初の「Nearly ZEB」認証を取得しました。



品川区児童相談所開設

地域の子どもの健やかな育ちを守る体制をさらに強化するため、令和6(2024)年10月に児童相談所を開設しました。

います。また、見守りおむつ定期便や第2子保育料・学校給食・学用品の無償化を実施するなど、先進的な子育て政策を推進しています。

主要課題・将来展望

主要課題

超高齢社会の到来に伴う介護の担い手不足や健康寿命の延伸、自殺や孤立死などを含めた社会的孤立など、喫緊の課題に迅速な対応することが求められています。

令和5(2023)年度に実施した全区民アンケートでは、区民が「自分らしく幸せに暮らしていくために特に重要」だと回答した項目として、「心身の健康」「仕事や経済」「安全・安心」「子育て」などが上位に並びました。

それらの結果を分析し、区民の「不」を取り除き、未来に希望が持てる社会をつくるため、令和6(2024)年度当初予算において、全国初となるウェルビーイング予算を編成しました。

ウェルビーイング予算の編成にあたっては、前述の優先度の高い政策課題を以下の4つの領域に整理しました。

① 安全・安心を守る

区民生活の不安に直結する自然災害や頻発する高齢者などを狙った凶悪犯罪などから区民の命と生活を守るため、防災、防犯、感染症対策などの重点的な強化を図ります。

② 社会全体で子どもと子育てを支える

義務教育にかかる経済的負担の軽減を図る観点から、授業で使う学用品(補助教材)に対し、所得制限のない完全無償化を実施するなど、「子育て・教育で選ばれるしながわ」に向けた政策を加速させ、安心して子どもを産み育てられる社会の実現をめざします。

③ 生きづらさをなくし住み続けられるやさしい社会をつくる

高齢者や障害のある方などだれもが自分らしく生き生きと暮らすことができるやさしく寛容な社会を構築するため、それぞれの人が抱える「不安」や「生きづらさ」を解消する取組を推進します。

④ 未来に希望の持てるサステナブルな社会をつくる

未来の世代が希望の持てる持続可能な社会の構築は、今を生きる私たちの使命であり、「経済」「環境」「社会」の視点から区民や多様な主体と行政が協働し、サステナブルなまちづくりを進めていきます。

今後も区民一人ひとりの思いに寄り添い、区民の幸福(しあわせ)、ウェルビーイングの視点から、区政を運営していきます。

将来展望

国連の研究機関が予測する100年後の地球は海面の上昇により膨大な陸地が水没し、災害の増大、食糧危機などにより、私たちの暮らしが根底から崩れるとされています。

そのような中で、区においては、未来の世代が希望を持てる持続可能な社会の実現に向け、各種施策を展開しており、令和6(2024)年5月には、SDGsの達成に向けて優れた取り組みを提案する都市として、内閣府から「SDGs未来都市」に選定されるとともに、その中でも特に先進的な取組を行う「自治体SDGsモデル事業」にも選定されました。

「ウェルビーイングの視点から～子どもとともに成長する新時代のSDGsしながわ～」の実現に向け、区民や区内の多様な主体と協働しながら、課題解決に取り組んでいきます。



水と緑の市町村との交流事業
品川区「水と緑の市町村との交流事業」基本構想(昭和61(1986)年度策定)に基づき、水と緑に象徴される自然環境の豊かな市町村との交流事業を通じて、健康で潤いのある区民生活の実現を図ります(写真は早川町交流ツアーの時のもの)。



舟運(クルーズ)
令和6(2024)年度に観光舟運の通年運航を実施し、舟運の知名度向上やイメージ醸成を図るとともに、観光舟運のニーズ把握や課題を抽出し、水辺のブランディングにつなげていきます。



マイボトル用給水スポット
ペットボトル等のプラスチックごみの削減を推進するための取組として、区有施設への「マイボトル用給水機」の設置を実施しています。



SDGs推進
SDGsの達成に向けて優れた取組を提案する都市として、内閣府から令和6(2024)年度の「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」にも選定されました。